



西宮市 文化振興 ビジョン

〔第2期〕

みんなが創る文化の力で
「文教住宅都市」を未来へつなぐ

概要版

平成31(2019)年



はじめに

(1) 改定の背景

平成18年に「西宮市文化振興ビジョン」を策定してから10年。指定管理者制度の本格化、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」や「文化芸術基本法」の施行など、文化芸術を取り巻く社会環境が大きく変化しました。

(2) 文化芸術の範囲

「芸術を目的とした芸術」はもちろん、大衆文化・生活文化や日常生活におけるデザイン、センスといった「暮らしと共にある芸術」も含めたものを文化芸術として広く捉えます。

(3) ビジョンの位置づけと期間

前ビジョンをふまえ、国の法規や計画を基にした、今後約10年の文化振興施策の礎であり、また市民が文化芸術に関して考えるきっかけとなるものとして作成します。本ビジョン作成後、別途アクションプランを作成し、事業の方向性を定めます。

基本的な理念

みんなが創る文化の力で 「文教住宅都市」を 未来へつなぐ

今後10年間の文化芸術活動の指針として「西宮市文化振興ビジョン」を改定するにあたり、西宮市における文化芸術の理念を「市民主体」「文教住宅都市」「文化芸術の力」の3点から組み立て、【みんなが創る文化芸術の力で「文教住宅都市」を未来へつなぐ】としました。

この理念に基づいて、文化振興政策が目標とすべきことを「文化芸術の浸透」と「まちへの愛着」の2点とし、具体的な方策として機会・人・場を増やすことと定めます。

これらを通じて、一人ひとりの市民が心の豊かさを追求し、このまちが住みよいまちであり続けるよう、文化芸術の面からの取り組みを提言するものです。

成熟した文化芸術環境

「西宮らしさ」を
形づくってきたもの

文教住宅都市としての誇り

西宮市における文化芸術の意義とは？

「住みよいまち」の根幹

現在の問い

これからの豊かさとは何か？

市民自らによる「心の豊かさ」の追求

理念

みんなが創る文化の力で「文教住宅都市」を未来へつなぐ

目標

まちへの愛着を高める

文化芸術を広く深く浸透させる

具体的方策

文化芸術にふれる
機会を増やす

文化芸術に関わる
人を増やす

つながりを生み出す
場を増やす

西宮における文化芸術の課題と意義

人々の志向が「物質的豊かさ」から「心の豊かさ」へ移行したのが昭和50年代のこと。いま文化芸術には心の豊かさを生み出し、QOL(生活の質)を高めることが求められています。

文化芸術に親しむことで、人生に複数の価値観をもち、居場所を見つけ、他者を受け入れる寛容の態度が育まれます。人生でなんらかの転換期を迎えた際にも、自分の価値を見失うことが少なくなるのではないのでしょうか。

「住みたいまち」と言われる西宮には、古くから文化芸術を大切にしてきた風土と歴史があります。とはいえ、阪神・淡路大震災により、昔から住んでいる世帯はけっして多くはなく、若い転入者や大学生も多数住んでいます。それらを含めた多くの市民にとって、いっそう住みよく、住み続けたいまちであり続けるために、文化芸術により、西宮への愛着や人とのつながりを持てるようにしていく必要があります。そのつながりのきっかけを様々な担い手が作り、多くの文化施設が拠点として機能することが求められます。

住みたい、住み続けたい、そして住み続けられるまちであるために、西宮における文化芸術を、**<文教住宅都市>** のアイデンティティとして広めていく必要があります。



01 文化芸術にふれる 「機会を増やす」

様々な障壁があって、劇場や美術館に足を運びにくい人にも参加しやすい、間口を拓けるような機会を提供できるよう工夫します。

アウトリーチ活動等によって、気軽になにげなく文化芸術とふれられる機会を設け、文化芸術の魅力、それが行なわれるまちの魅力の発見につなげます。

文化芸術情報を漏れなく届けるための環境を整えます。

観光、産業、まちづくり、福祉、教育等の他の分野への波及効果を増進させるため、各分野との連携を進めます。

02 文化芸術に関わる 「人を増やす」

【みる人】 まず「みる人」「きく人」(鑑賞する人)を増やすために、特に文化芸術を必要としていたり、ふれにくい環境にあたりする子供、子育て世代、中高年、高齢者に焦点を当て、それぞれの世代等に応じた文化芸術環境を整えます。

【する人】 専門的な芸術家を増やすだけでなく、市民が「する人」になるための機会を増やします。障がいのある人も「する人」として発表する機会を増やすことで、障がいのある人への理解を深めるとともに、文化芸術の普遍性を広め、市民全体のQOLを高めます。

【ささえる人】 市民自らが公演や展示を企画・実施して楽しむ場を創ることができるよう、文化芸術を担う「ささえる人」を増やします。

03 つながりを生み出す 「場を増やす」

市内の多くの文化施設が人のつながりを形成する文化拠点として機能するよう、バラエティに富んだ事業の実施や、施設間の連携を図るほか、市民の文化芸術への関わりを実現しやすくするアーティストバンクの整備、コンシェルジュ機能、コーディネーター機能を持つ必要があります。

市内に多数ある文化芸術を楽しむ様々な施設の情報を集約することで、まち全体に人の流れや集いの場をつくり、まちの魅力を発見できるようにします。



ビジョン推進のために ~それぞれの役割~

一人ひとりの市民の役割

西宮に何らかの関わりを持つ<関係人口>を含めた市民が、能動的に文化芸術に関わってQOLを高められるように、自ら文化芸術の魅力を広めて深めていくことが求められます。

市及び関連機関・諸団体の役割

市内各施設、大学・短期大学や企業等、諸団体が連携・協働して、広く市民の自主的な活動の機会・場を整えることによって、市民のQOLを上げていくこと、コミュニティ形成の拠点となること、また文化芸術の裾野をさらに広げるための事業展開を行なうことが期待されます。



写真左上から【1枚目】夙川さくら祭ライブステージ 【2枚目】「マウロさんとまり子さんとみんなでつくる超名曲コンサート」で客席に入って演奏するマウロ・イウラートさん 【3枚目】小中学校アウトリーチ事業(民族楽器) 【4枚目】市役所内ロビーコンサート 【5枚目】フレンテ・ダンスジュエルズ。東野祥子編成・振付による市民参加プログラム。公共ホール現代ダンス活性化事業。【6枚目】毎年西宮市大谷記念美術館で好評を博しているイタリア・ボローニャ国際絵本原画展

文化芸術を通じたこれからの西宮

10年の内には、高齢化が進み、人口減少時代を迎え、文化芸術をめぐる環境も厳しくなるかもしれません。西宮は文教住宅都市として、多くの人々から「住みたいまち」として高い評価を受けており、今後もそうあり続けるために、市民一人ひとりの取組みが求められます。

市民が文化芸術に「みる人」「する人」「ささえる人」と、様々な形で関わる機会と場を増やすための施策を進めることが重要です。

市民が主体的に文化芸術に関わることで、QOL(生活の質)を高め、新たな形のコミュニティの担い手となり、ライフステージに応じた心豊かな生活を送れるように、充実した環境を用意していきます。

そのフィールドで活躍するのは、一人ひとりの市民です。



西宮市文化振興ビジョン [第2期] 概要版

平成31(2019)年3月

西宮市産業文化局文化スポーツ部文化振興課 〒662-8567 兵庫県西宮市六湛寺町10番3号

Tel : 0798-35-3425 Fax : 0798-35-4045 E-mail : vo_bunka@nishi.or.jp

デザイン・挿絵：大河原波子（大手前大学メディア・芸術学部卒）